

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	名鉄バス株式会社		
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市中村区名駅四丁目26番25号		
工場等の名称	名鉄バス株式会社 名古屋中央営業所		
工場等の所在地	名古屋市中村区名駅南二丁目7-33		
業種	運輸業、郵便業		
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所		
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)		
事業の概要	旅客自動車運送事業		
計画期間	令和4年4月1日	～	令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和4年5月11日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 名鉄バス株式会社 名古屋中央営業所
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先			

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は、名鉄グループ環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」を活動の指針としています。

【名鉄グループ エコ・ビジョン】

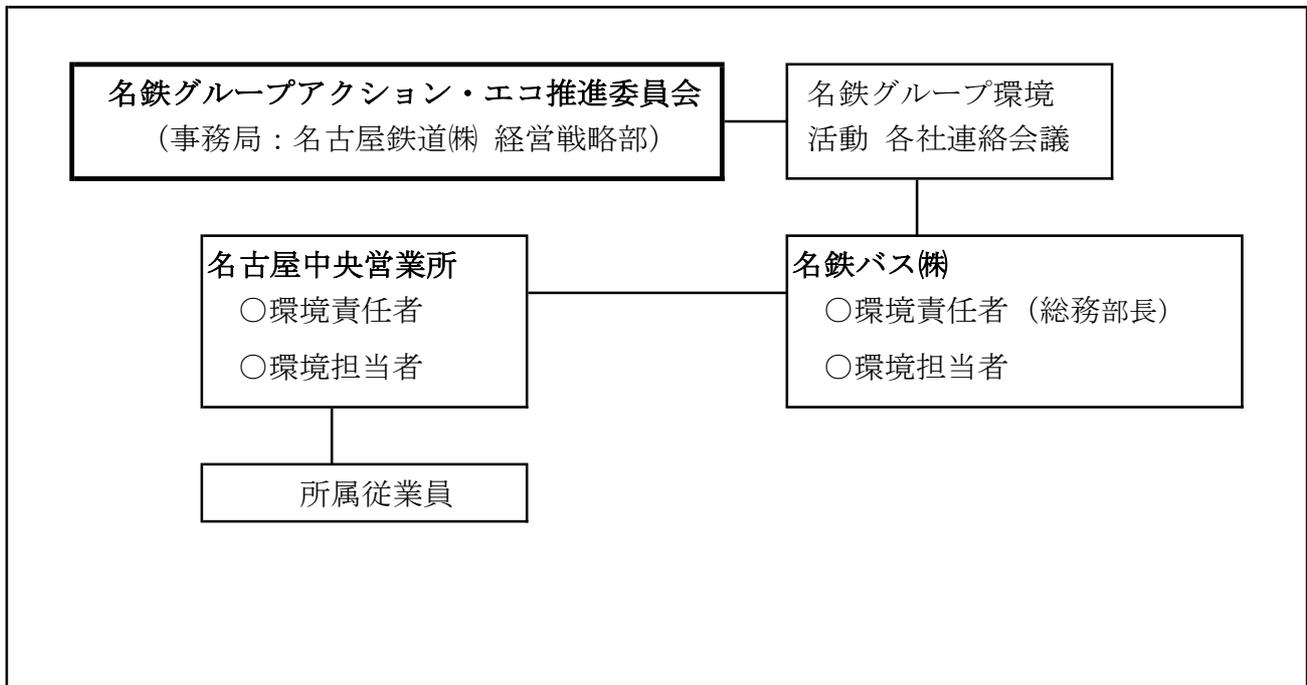
・基本理念

名鉄グループは、環境問題を地球規模で考え、地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業を目指します。

・基本方針

- ①環境問題に対する一人ひとりの意識向上につとめます。
- ②環境保全に関する技術力の向上と提供につとめます。
- ③地域との連携を大切にし、環境保全に対する社会貢献につとめます。
- ④環境法令の正しい理解と遵守につとめます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和3年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,833	t-CO ₂
①を （温室除く 二酸化炭素 換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		4,833

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和3年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和6年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	4,833	t-CO ₂	4,761	t-CO ₂	1.5

項目	基準年度 令和3年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和6年度 目標削減率	
	原単位あたりの 排出量		CO ₂		CO ₂	

(2) 目標設定の考え方

温室効果ガスを1年間に0.5%ずつ、3年間で1.5%削減

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第1号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	不要な冷房、暖房はこまめに切ります。また適切なエアコンの温度設定を行うことでエネルギー使用量削減に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの設定温度は、夏は28℃、冬は20℃に設定。 ・誰もいない部屋のエアコンは消す。
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	昼間時間帯で十分照度のある場合は、不要な照明の消灯に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もいない部屋の電気は消灯する。
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	省エネモードの設定を行う。また退社時はパソコンの電源をオフとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、プリンターを長時間使用していない時は、スリープモードになるよう設定。
自動車等輸送機関に対する対策	環境運転の指導徹底を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフ出力データを活用し、従業員へエコ運転を意識づける。 ・教習車両を用いた研修の実施。
廃棄物の排出抑制	両面コピー、裏紙利用によりコピー用紙の削減。また、紙資源の分別を確実に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルコピー紙使用。

指針第1号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

エアコンフィルターの清掃日に設定。空調の効率化に努める。

--